

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3091000079		
法人名	有限会社ネオファミリー		
事業所名	ネオファミリー高野口	「ユニット名: もも」	
所在地	和歌山県橋本市高野口町名倉100-2		
自己評価作成日	平成 23 年 2 月 1 日	評価結果市町村受理日	平成 23 年 5 月 2 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaijokohyo-wakayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3091000079&SCD=320>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症サポートわかやま		
所在地	和歌山市四番丁52 ハラダビル2F		
訪問調査日	平成23年3月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>笑顔が絶えない家庭的な環境作り、ケアの質の向上、利用者様御家族さまとの絆を深めていけるよう努めている。利用者様の不安を取り除き、安心して生活を送れる環境作りに取り組んでいる。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>2階建ての建物の1階部分は小規模多機能事業所、2階部分がグループホームとなっている。民家が隣接していて昔からの馴染みの商店やスーパーも近くにあり、地域での暮らしを実感しやすい環境にあるので、職員と一緒に買い物に出かけるなど、入居者が日常生活を楽しめるように取り組んでいる。旧街道沿いに弘法大師を祭っている祠があり、近隣のお年寄りが集まってベンチに座り、日向ぼっこや井戸端会議をしたりする場となっていて、入居者もお参りに行ったり一緒に話をするなど、地域の人達と共に過ごす時間を持つことできるよう支援している。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域性を踏まえ、職員全体が利用者地域とのつながりの重要性を理解している。	地域密着型サービスの意義をふまえた理念を作り上げ掲示している。毎月の定例会で理念を確認し共有するように心がけているが、明確な認識と方向性の一致には至っていない。	理念について職員間で十分話し合っ て認識を深め、方向性を統一して実 践につなげられるような取り組みに期 待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の夏祭りなどに参加し、グループホームの行事などにも地域の方にも声かけし、徐々にではあるが交流を図るよう努めている。	自治会に加入はしていないが、入居者と共に地域のごみ拾いを行なったりしている。また地域の夏祭りに参加し交流が得られたので、今後は地域の行事に進んで参加していくようにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民からの見学や入所相談もあり、入所に至るケースもある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会では、サービスの状況を報告し住民や家族様の方等による助言や評価を戴きサービス向上に努めている。今後の課題として、地域包括職員の方々にも参加して戴き助言等を戴くように努める。	運営推進会議は、区長、家族が参加して3カ月に1回程度開催して、報告や意見交換をしているが、市の担当の職員や地域包括支援センター職員の参加はみられない。	サービス向上をめざす観点から、様々な立場の人の参加が望まれる。今後、市の担当職員や地域包括支援センター職員、民生委員等にも働きかけ、意見交換の場となるよう期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター主催の会議などにな極力参加するように心がけ、介護保険課の方などには積極的にアドバイスを頂くよう取り組んでいる。	地域包括支援センター主催の会議への参加や、市の介護課の担当職員の訪問、見学等を通じた協力関係が持たれており、また、機会があるごとに足を運び連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の勉強会なども行い、職員一人一人が理解を深め取り組んでいる。危険防止の為、階段には柵をもうけている。	月1回の勉強会で身体拘束をしない取り組みについて学習している。また、職員が常に意識できるように掲示している。玄関は自動ドアで自由に入出りでき、エレベーターも自由に使用できるようになっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての理解を深め事業所内に身体拘束ゼロ宣言を提示し意識付けを図っている。		

【事業所名】グループホーム ネオファミリー・高野口 ユニット名:もも

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議にて権利擁護や青年後見制度について学ぶ機会を持ち、必要に応じ活用できるよう意識付けを図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	サービス開始時に利用者様や家族様へ十分説明し、理解を得て署名して頂いている。またサービス開始後も必要に応じて説明し理解を得よう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様や家族様が意見や悩みを気軽に言える環境作りを心掛けている。毎月、ネオファミリー通信の配布を行い御家族様に少しでも情報提供できるよう努めている。	毎月ネオファミリー通信を配布し入居者の情報を提供しており、家族の訪問時には必ず近況を報告している。行事等の後に開催した家族会にはほとんどの家族が参加し、家族の思いを聞くことができる場となっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	話しやすい雰囲気作りを心掛け、職員会議や申し送り等の意見や提案を聴き、検討し職場の環境改善に努めている。	職員会議や申し送り時に、職員からの意見や提案を聞くようにしている。また職員は管理者に色々な相談ができ、意見も伝えられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の健康管理を含め職場の環境整理に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員会議内で、研修内容を回覧で廻し希望に添って研修の機会を設けている。また、力量に応じて、適切な研修の進めを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流の中で運営に関する情報交換などを行い、サービスの向上を心掛けている。		

【事業所名】グループホーム ネオファミリー・高野口 ユニット名:もも

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安やさみしさなどを柔げるよう寄り添い、傾聴、受容し安心して過ごせる環境を提供できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の悩みや不安など傾聴し、早期解決に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族様との情報交換を密にし、本人の状態に応じたサービスを提供できるように心掛ける。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活を共に過ごす家族のような関係を築き、尊敬の念を忘れず信頼関係を築き行く。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面接時や電話連絡の際など、情報交換を随時行い、御家族様との信頼関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	特定の利用者様の友人ではあるが、面会時には他の利用者様とも共に趣味の洋裁などを行ってくれる。今後も友好的関係が継続できるよう支援する。	今までの生活習慣の継続を支援している。家族との外出は多く、外食をしたり、お墓参りに行ったり、行きつけの美容院に行ったりしている。入居者の友人の訪問で、他の入居者を交えて洋裁をしたりする機会も設けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共に過ごす家族として、孤独感を感じさせないように努め利用者様同士の友好的関係は継続できるよう見守り、支援する。		

【事業所名】グループホーム ネオファミリー・高野口 ユニット名:もも

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後は、必要に応じて本人、家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向に常に傾聴し、日常生活の中で表情や行動などからも希望や思いをくみとれるよう努めている。	自分の思いを言葉で伝えられる人は半数位あり、傾聴に努めている。思いを伝え難い人には、本人からのサインを見逃さないように努めている。また家族からの情報も参考にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス開始前より家族様などに情報収集を密に行い、サービス開始後も本人、家族と共に情報を得よう努めたい。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフ間の情報交換に努め、日々の状態を観察し、把握に努めたい。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	週一回のカンファレンスなど、スタッフ間での情報交換を行い、本人や家族等の意見を取り入れ介護計画、モニタリングに反映している。	介護計画は、担当者会議を開き意見を聞いて作成され、モニタリングも行われている。管理者は、さらに現実に即した計画となるよう、個別に具体的な計画を作成して行けるよう検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録以外にも申し送り等での気づきや意見を交換し、注意点があった場合には口頭の申し送りだけでなく申し送りノートに記入し、職員全体共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の望むニュースに柔軟に対応し、サービスの多機能化に努めている。		

【事業所名】グループホーム ネオファミリー・高野口 ユニット名:もも

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源(警察・消防・民生)との関わりによって安心して生活を送れるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族等の希望に沿えるよう医療の支援をしている。	入居前のかかりつけ医を受診しており、往診に来てもらう人もいる。通院は家族が行い、受診がスムーズにできるように日々の状況を家族に伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と情報交換を密にし情報を共有できるよう努め、必要に応じ往診、受診などの支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療従事者に情報提供書による説明を行い、早期退院に向けての情報交換や受け入れ態勢にも努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期における事業所のできる事できない事を家族様、関係者等で十分話し合い、医療、介護、家族等チームで取り組んでいる。	看取りの介護を行う方針はあるが、今まで看取った人はいない。看護師、協力医が近所に住んでいて、緊急時はすぐ来れるようになっているが、連絡体制が不十分であり、職員の不安が懸念される。	今後に向けて、緊急時の連絡体制を職員間で共有すると共に終末期の介護体制を整えて、職員の不安の軽減への取り組みが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会や実技訓練などを行い、全職員、冷静に落ち着いて対応できるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、地域の消防署の協力の元訓練を行い、避難場所や避難ルートを全職員が把握している。	年2回、入居者も消火器で消火活動を行う等、消防訓練に参加しているが、地域からの参加はなく備蓄も行っていない。また地域での防災訓練にも参加していない。	今後は、運営推進会議で話し合うなどして、地域で協力し合う防災システム作りを目指すことを期待する。

【事業所名】グループホーム ネオファミリー・高野口 ユニット名:もも

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の人格や意思を尊重し、気分を害さないよう思いやりのある声かけに努めている。	カンファレンスやミーティング時にプライバシーについて話し合い、声掛けも本人が望む言い方をするように配慮し、職員間で統一出来るようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の意見には常に傾聴し、気軽に希望や思いなど発言して頂ける環境作りを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースに沿ってケアを行い安心し、充実した1日を過ごして頂けるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意見を尊重し、利用者個人個人の身だしなみやおしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と共に食事作りや後片付けなど、利用者本人から率先して行ってくれる。利用者と職員が同じ食卓で同じ食事を食べれる事により会話も弾み食事を楽しんでいる。	職員と一緒に買い物に出かけ、その場で献立を決めることもあり、入居者も食事作りに加わっている。職員と入居者が共に食事を楽しんでいるが、テレビの音量が気になる場面もみられる。	食事作りや食事を共に味わうことは、コミュニケーションを深めたり、関係づくりを行う上で重要である。食事中はテレビを控え、会話を楽しめるような配慮も期待する。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェックリストを設け、全職員が把握できるよう心掛け、状況に応じて対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後誘導、声かけを行っているが拒否の有る利用者には状況に応じたケアを行っている。		

【事業所名】グループホーム ネオファミリー・高野口 ユニット名:もも

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄サインを見逃さないよう心掛け誘導を行い、排泄チェック表などを参考し、自立支援を行っている。	夜間にオムツを使用している人はいるが、昼間はオムツを使用していない。入居者の表情を見ながら排泄の訴えを汲み取るようにしている。今まで失敗していた人も排泄のサインを送れるようになってきている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品を摂取して頂くよう心掛け、食後には適度な運動など取り入れ便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望のある利用者には入浴剤など使用したり、1人1人のペースに合わせた入浴を心掛けている。	入浴を希望する人には毎日入浴を行っているが、少なくとも、2日に1回は入ってもらうように声掛けをしている。特殊浴槽での入浴であるが、好みのシャンプーや入浴剤で入浴を楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調を考慮し休息を取って頂いたり、入居前にはリラックスできる時間を設け安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方箋一覧表を熟知し、誤薬防止の為、利用者1人1人に各ケースを設け支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や、洗濯、食事の後片付けなど本人の意欲に沿った役割の提供や利用者の意見を取り入れたイベントや行事を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所の神社やスーパーなど外出の機会を設け、近所の人々ともふれあい、気分転換を図れるよう支援している。	外出は限られた人になりがちで、出かける機会も少ない。今後に向けて、花見に行ったり、外食に行ったりと、皆で出かけられる機会を持つことを企画している。	外出しにくい人の思いも大切にしながら、近くの住民が集まる所への参加の機会を増やすなどして、日常的な外出への取り組みも期待する。

【事業所名】グループホーム ネオファミリー・高野口 ユニット名:もも

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その時の状況に応じ、預り金を返却し、自由に買い物ができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の協力の元、自由に電話のやりとりができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季折々の装飾品をかざり、季節感を感じて頂けるよう努めている。不快を感じないよう音量、光量、室温にも配慮している。	食堂が手狭で、配膳時は移動が辛い。ソファが置かれているスペースはあまり使用されていない。また窓全体がすりガラスで、季節感を感じにくくなっている。	事務室のカウンターを食堂の一部として利用するなど、スペースを有効に活用する工夫が望まれる。また、生花や鉢植えなど、自然の季節感が感じられる雰囲気作りも望まれる。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	十分な広さではないが、利用者同士で雑談やテレビ観賞ができ、のんびりとした時間を過ごして頂けるよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた家具や、家族の写真などを配置したり、本人が心地よく過ごして頂けるよう支援している。	洗面台のみが事業所のもので、他の家具は自分で持ち込んでいる。特にベッドは介護用ベッドだけでなく個々に利用しやすいベッドを使っていて、皆が居心地良く過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	表札などで場所の把握に努め混乱を予防している。手すりやバリアフリー化により安全に生活して頂けるよう工夫している。		